

ガソリン・パニックと 信号待ちストレス

私は毎朝、子供達を学校に車で送ることを18年間やっている。

昨年9月5日の台風や翌日の地震の影響で、北海道すべての地域で停電になった。その結果、多くのドライバーが移動できずに車両がただの鉄の塊だと実感させられた。ほとんどのドライバーはガソリンをガソリン・スタンドで給油するが、そのガソリンは地下タンクから電動ポンプを使い車両に注がれるので、停電ですべて使用できなくなったのだ。

実はエマージェンシーで手動ポンプがついているが、手回しハンドルで50リ入れるのに100回以上もクランクを回す必要がある、それにメチャクチャ重いのだ。最終的にガソリンが港の貯留タンクから到着しなくなると大混乱に陥った。

隣町のあるガソリン・スタンドは緊急用の発電機を用意していたので、近隣町村の役所関係に優先して給油したとのこと。賢明な準備は命を救うのだ。

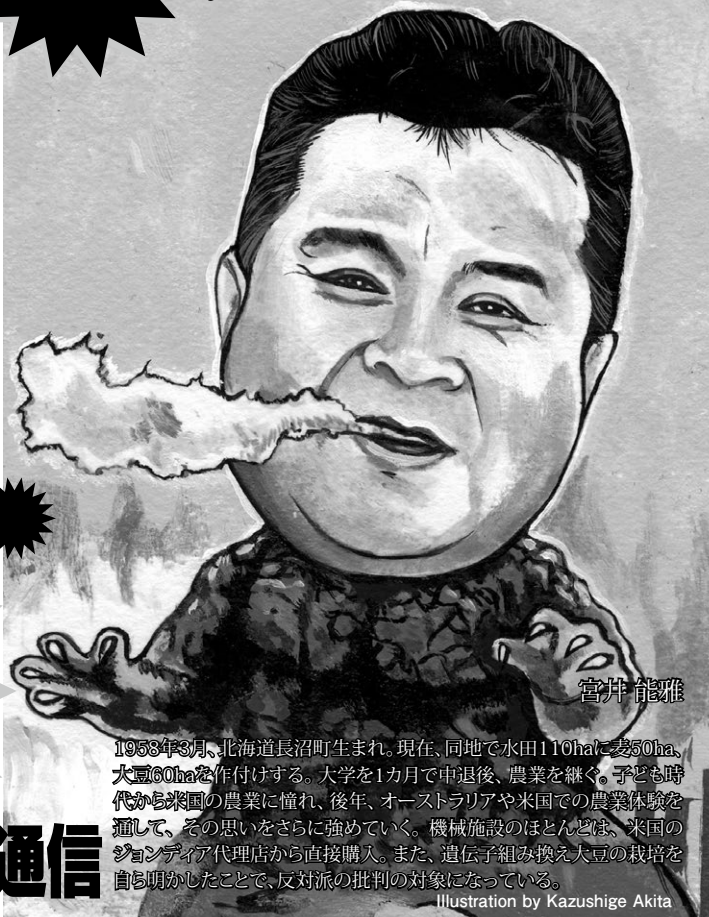
私はそこそこの燃料を保管していたので困ることはなかったが、なんと備えをしない生産者が多いことか……。ある時は行政を叩き、ある時は日本、韓国、台湾に

しかない戸籍制度を利用したり、もちろん金髪・ブルーアイが栽培して日本の全農が輸入して、加工して、日本のすべての消費者に販売している遺伝子組み換えを肯定できなかったり、そして自分では何もしない選択は賢いのだろうか。間違いなくそのツケを将来払っていないか。

子供を学校に送り届けて自宅に帰り仕事をす。帰り道に国道と面する信号がある。国道側は片道2車線道路は十分広く作っているが、信号の手間の道路はかなり狭く、センターラインもない道路になっている。その信号をいつも8時10分頃に通過する。いつも同じところで同じ時間で信号待ちをしていると、同じ車両が国道からこの狭い道路に入ってくる。乗用車だと問題ないが、月、水、金曜日には大型の生乳収集車が国道から左折して来る。信号待ちの運転手は例外なく良き法律順守者なので、信号手前の停止線で止まるが、それが問題になる。

日本は小作人根性に溢れてる(3)

Vol.137



交差点から停止線までの距離が短いのだ。その結果、大型車両が毎回大きく反対側に膨らんで狭い道路に入ることになる。その様子を見る停止線側の運転者はビビって少し左に寄せたり、危険なのに後退する場面に何度も出来わした。

99%の運転者が停止線で止まるが、8時10分に起こることを予測していない。では、どうすれば良いのか？ 簡単だ。停止線から

**オレにも
言わせる!**

**北海道長沼発
ヒール・ミヤイの憎まれ口通信**

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョシディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

Illustration by Kazushige Akita

5mくらい手前で停止すれば良いのだ。簡単でしょ。

まだある。その交差点に中古車の販売店があり、車と従業員の道路横断による出入りがあるのだ。一番安全なのは停止線の10m手前で止まるか、一台分開けてまた5m空けるのがお互いの幸せなのだ。

毎朝、毎朝(週に3回)ここを同じ車が通過するのに、気が利かない運転手が多いことに驚く。まったく下水道業の糞尿製造機程度の価値しかないのか。

さらに帰り道のソバ屋の付近に、右折できる信号がある。これがまた厄介なのだ。はっきり言ってこの交差点から右折できる必要はない。理由は危険だからだ。その手前の大きな交差点で右折して進めば、左折できるのだから。下り坂でウィンカーを上げて右折するのだが、ほぼ100%の運転手のウィンカーを上げるのが遅いので、その車両の後ろにいたら一旦停止することになり、不要なストレスを感じるのだ。

その状況を法律と物理を使って説明しよう。道路交通法では右折する場合は30m手前でウィンカーを出し終わっていなければならないことになっている。かつて私は、30m手前+車線変更の3秒前、現実には操作する1秒を追加すると、走行時速60

kmでなら100m手前でウィンカーを上げる操作をしないとだめよ♡と習った。しかしながら、そんな長期戦に臨む運転手はいない。アメリカの田舎に行くとき右折(左折)のクォーターマイル(約400m)手前からウィンカーを出す人もいる。やはり車社会が2世代違うと操作方法も違うんだと感じる。

強制参加の草刈りぶり……

自宅が近づくくと、国道の右側には南6号川、国の1級河川がある。黙っていると、その河川の周りは草ぼうぼうになって維持管理に支障が出る。そこで、7月の第一日曜日の7時に集合して草刈りを行なうことになっている。「あゝ面倒くさ!」、これが偽りのない大脳の回答だ。だが、やることはやらないと、水害の時に車両や樋門管理ができなくなる。でも、やりたくない。

実は土地改良区の水路周りは、除草剤を使って管理している。1970年代は長老が仕切って15分ほど鎌で雑草を刈り、15分かけて鎌を研ぐカッターイ作業を2時間くらいかけてやっていた。まだ学生だった自分はサッサと済ませて遊びに行きたかった。そこである年に、事前に除草剤のラウンドアップを適当な距離に散布して、強制参加の草刈り

の当日には行かなかった。

さー大変。長老から「部落の仕事は何だと考えているんだ! 当日参加することに意義があるんだ!」となったのだ。私は黙って聞いて、心の中で呟いた。「そんな考え未来永劫続くと思ってるのか、ボケ!」。このあたりから、こいつらとは目指すベクトルの長さで太さは違うなと考えるようになった。

そういえば、こんなことも言われた。「共同作業で用水に除草剤なんて、もったいないだろ」。ふうん、いまでは鎌で草刈りをする者はいない。もちろんあの時の長老のご子息も。ただ平成になっても、国が管理する河川で国道から丸見えの管理道路の草刈りはそのまま維持されたが、やはり私は用水と同じようにラウンドアップを使用した。

ラウンドアップは散布後およそ1週間で効果が現れ、雑草の色が変わるので、強制開始日に間に合うように作業を終わらせた。作業距離も後からギヤーギヤー言われないように全体の1/4くらいにしておいたのだが、やはり出てきた、出てきた。山おやじ(北海道のお菓子のCMソング)が現れる。

わめく内容は用水除草と同じだ。ただ周りの意見はそうではなかった。1年が経ち、2年が経ち、5年

が経つと、この国の管理の川で鎌を使って草刈りをする者はやはりいなくなつた。ただお金の流れは別で、長い鎌を持って10分歩いて日当1万円もらうことの重要性を見出すことに興味を持つ者もいる。

国道側の川の傾斜部分も雑草が生える。以前は開発局(国の管理事務所)がトラックの側面に装着した草刈機ですべての区間を処理していた。だが、最近では交差点の50mくらいしかやらないので、草が車両を隠してしまい危険極まりない。そこで10年前から国道から河川の間の数mに除草剤を散布することにした。

使用するのはバスタだ。ラウンドアップと違い根まで殺さないで、すべての雑草をやっつけることができる。これで大雨の時に地盤が崩れ道路の陥没等の被害を防げる。作業距離は2.5kmで経費は5万円、朝5時に従業員2人と作業を開始する。その結果、私の地区だけが見通しの良い交差点を維持している。

なんて私は素晴らしいことをしているのでしょうか。自分の利益だけを考えても十分周りの利益に反映している、その御姿はあく美しい。そんな私の行動を見て周りはブツブツ、ヒソヒソ……。まあ、小作人根性の持ち主には、わかりっこないってことですよ。